



若林哲史「迎春の光・三浦岬」F4(水彩)

作者コメント(若林)

「今年は強い太陽の光が隈なく届きますように！」
初日の輝きをシルエットの暗さとの対比で強調しました。

喜田コメント

色彩と光が最高です。双子岩の間の海から昇る「初日の出」が海面に映って、海の深さも静けさも感じます。左の船と松が画面を面白くしています。船はもう少し沈めたほうが良い。



遠矢慶子「11本のチューリップ」F8(パステル)

作者コメント(遠矢)

今年の初描き、チューリップを 10 本買ったら 1 本おまけで 11 本になりました。
水彩で描いた上にパステルで描き加えたら、画用紙がこすれて失敗。
結局、パステルだけを使いました。いつも背景の色で悩みます。

喜田コメント

モチーフも構図も色彩も美しい作品です。
水彩とパステルは一緒には使えないと思います。水彩が完全に乾いた後、補助的にパステルを使うことは出来るでしょう。
苦労した背景は素晴らしいと思います。淡い色調の中に縦に入れた「線」が効果的です。
壺の左側のブルーは美しいが、もっと濃く、暗くした方が作品としては良くなります。

作者コメント(筒井)

年末に大掃除をしたとき、秋に私達を楽しませてくれた菊の花が、庭の隅に咲き残っているのを見つけました。
早速、摘み取って花瓶に挿し、年末・年始にもう一度、楽しみました。
菊さん、ありがとう。

喜田コメント

誠実で繊細な作品です。
名残の菊も、白磁の壺も、淡青のテーブルクロスも気持ちを込めて描いているから、鑑賞する者に作者の気持ちが伝わります。「名残の菊」を感じてもらうために何が必要か考えてください。



筒井隆一「名残の菊」F6(水彩)

作者コメント(月川)

7 年前に友人で行った白川郷、雪の中の篝火が強く印象に残っています。ちぎり絵では雪の表現が難しい、絵具を加えたい気持ちになりました。
左奥の雪に煙る遠くの合掌造りの家を試行錯誤して、やっと制作しました。

喜田コメント

小さなはがきの中に強い冬景色を表現しました。
雪を被った木々、それに囲まれた雪の合掌造りの家、雪に閉じ込められた寒々しい村、と赤々と燃える篝火の対比が面白いと思いました。遠くの雪に霞んだ村落の表現も素晴らしい。



月川りき江「感動したが寒かった～」はがきサイズ(ちぎり絵)

作者コメント(竹前)

暮れの赤坂一ツ木通りです。
人物に力点を置いて描きました。また、遠近感を出すために消失点を意識して建物・道路・人の大きさを考えて描きました。
通りの乱雑さを表現したかったのですが、如何でしょうか。



喜田コメント

遠近法を使って奥行き感のある作品です。色彩も美しい。
暮れの一ツ木通りなら、もっと人通りが多いはずですが、コロナのせいで少ないのでしょうか。道路の左側にも商店街があってもよいと思います。左側の木が面白い。

竹前義博「年の暮れの赤坂一ツ木通り」F4(水彩+クレヨン)

作者コメント(岡田)

憧れのバーの光と闇のコントラストを描くつもりでしたが、明るくなってしまいました。娘の妖怪的な顔が夜の雰囲気を出したでしょうか。

喜田コメント

この作品の一番優れているところは中心の人物がしっかりと主張しているところです。顔の表情もよい。飲んでいる飲み物の表現もよい。奥のカウンターに腰かけた女性との表現の対比も面白いです。バーの室内もよく描けていますが、夜のバーの雰囲気が描けていません。もっと感じたもの(夜のバーの怪しさ)を強く描いてみてください。



岡田理子「バー・サンボアにて」F6(水彩)



作者コメント
(黒田)

鼠年から丑年に、何気ない日常の復帰を願って。
セレクトショップで入手した干支の陶器とモダン作家「内田正泰」の絵を組み合わせたモチーフです。

黒田重雄「希望の年へ」F4(水彩)

喜田コメント

面白いモチーフですね。正月にちなんだモチーフを描く、という要求に忠実に応えていただきました。「鼠」と「牛」と中央に「獅子舞」です。モチーフが特殊な静物だったので黒田さんのいつもの写実力が発揮できませんでした。鼠と牛と獅子の会話が聴こえてきそうです。大胆なタッチの作品、これはこれで面白い作品です。

作者コメント(武智)

12月15日に花屋に「榊」を買いに行ったら、その時、正月用の切り花の残りの中に、面白い「竹」を見つけました。お店の方に分けていただき、気になる「竹」を家に持ち帰りました。今回は「水彩」でなく「水墨」で竹に挑戦してみました。

喜田コメント

武智さんの水墨画を初めて見せていただきました。四君子(松・竹・梅・蘭)をしっかりと勉強したことがわかります。竹の葉は1枚が良かったのでしょうか？1枚にした理由は何でしょうか？2枚が良いか、3枚が良いか考えましょう。筆に勢いがあったとても良いと思います。



武智康子「竹」色紙(水墨)

作者コメント(井上)

三が日を過ぎでいたので、人が少なく、別の場所で見えた親子をアクセントで持って来ました。額縁スタイルは描きたかったアングル。消失点も配慮しました。

喜田コメント

コロナで閑散とした初詣の風景ですね。井上さんは超多忙で締め切りギリギリの出品でしたのに、この作品は驚くほどよく描き込まれています。親子の表情も愛情も会話さえが感じられて申し分ありません。オレンジ色の成功例。



井上清彦 「井草八幡宮の正月風景」 F4(水彩)



喜田祐三 「わたしの街の元日」 F3(色鉛筆+水彩)

作者コメント
(喜田)

2021年元旦朝、スケッチブックと色鉛筆をもって描初めと初散歩に出かけた。「日の丸」を掲揚した家があり、昔のわが家と亡き父を思い出した。遠くでは朝早くから子供たちが凧揚げをしていた。